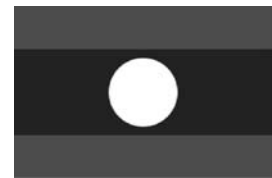


ラオスの人口問題 (世界の人口問題の单元の中で)



Laos

佐藤 安弘

東京都立目黒高等学校

- 担当教科：社会
- 実践教科：地理
- 時間数：5時間
- 対象：高校1年生
- 対象人数：41名

〔1〕 授業実践のテーマ・目的

- ・世界の人口の分布が不均等であるのは自然環境（地形・気候）や社会環境が要因であることを考えさせる。
- ・世界の人口増加（人口爆発）についてその実態と問題点を考えさせる。
- ・人口の年齢別構成（人口ピラミッド型）や産業別人口構成（三角グラフ）の読み方を知ることにより世界各国の人口動態や人口問題についての因果関係を理解させる。
- ・発展途上国の人口問題に関し、ラオスを例にあげ考えさせる。
- ・先進国の人口問題に関し、ヨーロッパ各国の福祉・高齢化社会に対する取り組みについて知るとともに、これからの日本の人口問題について考えさせる。

〔2〕 授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【世界の人口と人口分布】 世界に人口、分布状況を理解し、世界の人口の多さを実感させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の多い国上位11か国を地図帳の世界の国々データから調べさせ、黒板に国名ならびに人口の数値を書かせる。人口の多い国上位国がアジアに多いことを知る。 ・世界の人口分布図から世界の中で人口が集中している3地域を知り、アジア地域だけが農業地域であることを理解する。 	地図帳 資料集
2	【人口の構成と転換1】 人口ピラミッドの型からどんなことが読み取れるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増減は自然増減と社会増減で表せることを知る。 ・男女別・年齢別の人口ピラミッドの型とその特徴を理解する。 	資料集
3	【人口の構成と転換2】 人口転換の推移を地域の経済状況から読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・人口転換モデルの図を出生率と死亡率の関係から理解させ、また、人口ピラミッドの型と対応できるようにする。 ・産業別人口構成を三角グラフから読み取り、国の経済状態を理解する。 	資料集 三角グラフ作業プリント
4	【ラオスの人口問題】 発展途上国の人口問題の例としてラオスを取り上げ、考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単にラオスの国情を知る。 ・ラオスの医療状況を知り、乳幼児死亡率の高さ、妊婦の死亡率の高さを知る。 ・ラオスの病院で活躍している青年海外協力隊員の活動報告と先進国の国々がさまざまなかたちで発展途上国を援助している実情を紹介する。 	ラオス全図 写真
5	【先進国の人口問題】 先進国の人口問題に対する取り組みを知り、日本の人口問題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・スウェーデンを例にあげ、少子化対策や福祉問題について考える。 ・日本の少子高齢化社会が進行していくと生じる問題点を考えさせ、今後どうすべきなのか考えさせる。 	

〔3〕 授業の詳細

1 次限目：【世界の人口と人口分布】

まず、黒板に人口の多い国ベスト 11 と板書し、1 位：中国、13 億 1100 万人と書く。そして、10 人の生徒をあて、順番に地図帳の巻末の世界の国々のページから人口の多い国を調べさせ板書させた。

1 位：中国 2 位：インド 3 位：アメリカ合衆国
4 位：インドネシア 5 位：ブラジル
6 位：パキスタン 7 位：ロシア 8 位：バングラデシュ
9 位：ナイジェリア 10 位：日本 11 位：メキシコ

上記の 11 カ国は 1 億人以上の人口を有する国であり、また 1 億人以上の国の半分以上はアジアの国であることに、調べている間に生徒たちは気づいた。

次に人口分布図を見て、人口が集中しているところは、西ヨーロッパ、アメリカ合衆国北東部、モンsoonアジア（中国～東南アジア～インド）であることを確認するが、前者 2 つは先進工業地域であるのに対し、後者 1 つは農業地域であることを確認させた。加えて、途上国地域でありながら人口が多いのはその人口を支えることができるほど農作物が生産されている地域であることを認識させた。

2・3 時限目：【人口の構成と転換】

人口に関する各種の図の読み取り、分析を行った。人口ピラミッドの型では富士山型→釣鐘型→つぼ型と出生率、死亡率の変化で移行していくことを理解し、人口転換モデルの図と合わせて人口の変化を理解させた。人口転換モデルの図では出生率と死亡率の差で人口が増減するメカニズムを理解させた。

発展途上国では子供は親にとって稼ぎ手であり、しかし乳幼児死亡率が高いため、出生率も高くなる。第二次世界大戦後、発展途上国で、医療面の改善から死亡率が低下したため、「人口爆発」が起きることになった。それに対し先進国では、女性の社会進出、医療制度、社会保障制度の整っているため、出生率・死亡率とも低い。そして、先進国の中には、少子高齢化により、人口減少が起きている国

があり、ヨーロッパの例を挙げて、そのような国では労働者不足を補うため、外国人が多く移民してくる現状から自分たちが老後になるの頃の日本を想像させ、今後の日本について考えさせた。

三角グラフに各国のデータを落とし、産業の構成比により、生徒たちは各国の経済状況を読み取れるようになった。

4 時限目：【ラオスの人口問題】 今回の研修による授業実践

まずラオスの簡単なプロフィール（国土面積、人口、多民族国家）や写真で現地の様子を紹介した。その写真の一つで豊かな農村風景も紹介した。

次にユニセフ「世界こども白書 2006」のデータ、ラオスの乳児死亡率、5 歳未満児死亡率を提示し、死亡率の高さを知らせた。また、妊産婦死亡率がなぜ高いのかを生徒に問いかけた。

医療の発達の遅れ、病院施設不足、薬不足の実態を知らせ、さらに、貧困層では病院に通うお金がないこと、医療が高額なため治療が続けられないため、日本では命を落とすことがない病状でも死亡している実態を生徒に伝えた。生徒は少し衝撃的な様子であった。そして、地方では、妊婦は森の中で一人で出産し、出産後ご飯しか食べてはいけない風習があったり、妊産婦の死亡が一日 3 件はあることを知り生徒は驚いていた。また、地方（少数民族居住地）には医療施設が少なく、都会に比べて地方の死亡率の高さを知らせ、主要民族（ラオ族）と少数民族間の行政サービスの格差について考えさせた。

ラオスに看護師として派遣されている青年海外協力隊員から聞いた話を生徒にすることにより、ラオスの医療事情を生徒に伝え、ラオス人気質も紹介することにより、援助活動の大変さを理解させた。



1：タートルアン



2: ビエンチャンの街角



6: 農村の住居の中



3: ルアンパバン郊外の農村



7: 青年海外協力隊員(看護師)



4: モン族の子供



8: 現地病院



5: ラオ族の子供



9: 農村の老人

5時限目：【先進国の人口問題】

先進国では人口の少子高齢化が進み、合計特殊出生率が低下、高齢化社会、高齢社会になっていることを知らせ、その背景には晩婚化・非婚化の進行、離婚率の上昇、家族計画の普及、女性の高学歴化と社会進出、そして年金などの老後の社会保障制度の充実があることを理解させた。

スウェーデンを例に挙げ、出生率を上げるための子育て支援政策の充実、保育施設、育児休業制度の確立を紹介し、日本の政策と比較させ、考えさせた。

また、社会福祉制度の充実、年金制度、老人ホームや病院施設などの維持のために高額な税金負担があり、生産年齢層の不満になっていること、介護者の人手不足であること、財政悪化などの問題点も生じていることも理解させ、これから進行していく日本の高齢社会に対してのどうすべきかを考えさせた。

〔4〕 授業実践を終えて

今回の研修の授業実践は、「世界の人口問題の発展途上国の問題点」の学習内容でラオスを取り上げて行った。現地の病院の視察で得られた情報をもとに、医療技術、機材の遅れ、加えて貧困のために病院で診察を受けられない人々、高額な治療費が払えない人々、薬が満足に行き渡らない現状を生徒に伝え、そのために乳幼児死亡率が高いことを伝え、日本でなら死亡することのない病状でも命を落としてしまうことがあることを伝え、考えさせる良い機会となった。この現実先進国のわれわれが何かできないかということに関して、看護師として現地に派遣されている青年海外協力隊員の活動を紹介し、日本が発展途上国へ援助を行い、国際貢献していることを生徒に理解させることができた。

〔5〕 参考文献（引用文献・参考資料）

- 『ラオス人民民主共和国の看護教育の過去・現在・未来』
小西清美、草間朋子 大分看護科学研究 5（2） 2004
- 『ラオス：妊産婦と新生児の死亡率減少の取り組み』 unicef 2009/3
(http://www.unicef.or.jp/library/pres_bn2009/pres_09_13html)
- 『ラオスの光・国際協力の現場（中）』 国際協力機構 2009/12
(http://www.jica.go.jp/story/media/media_17.html)